

三洋電機
 EBソリューション事業推進部長
 あおき ひであき
 青木 英明さん 52

OFF 私の休日



沖に出て風を受けると仕事の悩みも忘れられるという(天津市の琵琶湖で)

1922年に日本人が作った国内最古のヨットクラブ「琵琶湖ヨット倶楽部」(大津市)で、週末ごとにヨットを走らせている。

中学2年生のころ、クラブに所属していた伯父に誘われ、ヨットを始めた。見よう見まねで湖に出るうち、競技ヨットに魅了された。大学に入

るとすぐにクラブの正会員になり、一人乗りでセールが一枚のレーザー級選手になった。大学院に進学した後も続け、全日本選手権や東アジア大会への出場経験もあ

自然派 ヨットも事業も

る。

競技では、その場の風の強さだけではなく、波や雲の様子、周囲の山々の見え方も勘案し、セールとカジを微妙に操る必要がある。ただ速く走れば勝てる競技ではなく、相手の風上に立って、乱れた風を送るなど、戦術を駆使する。

あらゆる要素を総合的に判断して一つ一つの動きを決断するという点で、「ヨットと事業は似ている」と話す。会

社では、主力のリチウムイオン電池を使った電動バイクの駆動システムを開発しており、「環境に優しい点でヨットと電池は共通点がある。これからも公私とも自然派でいたい」と考えている。

今でも月に1度、競技会に参加し、20〜80代の約40人の会員がいるクラブの副会長の仕事もこなす。2010年夏、オーストリアで開かれた国際ヨットレースに日本のヨットクラブで唯一招待された。クラブの伝統を守りながら、今後もヨットの普及を図っていきたいという。(立石知義)

